清記用紙（番号 1）

（ 林 ）写

	天	地	人							
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
秋深き路地に人気の店師	秋風や十石舟の水脈豊か	骨折の白き蘇生や芋の露	秋麗や一難去って我が心	初霜の朝も日課の三千歩	死に近き父に呼ばるる霜の朝	渋柿の渋抜けてゆく山河かな	霜の朝フロントガラスがすりガラス	なくれんぼして黄落の色となる	翁忌や句碑に雫の草書体	

南柯句会

知り合い
南柯

選句用紙

選者名

特	6 特	5 特	4	3	2	1
一つ家に二つの余生冬隣	御陵(みさざぎ)へ暮れゆく山路椋(むくり)の実	神鶏(しんけい)のまどろむ宮の黄菊かな	翁忌や句碑に雫の草書体	刻々と沼にのまるる破蓮(やれはす)	初霜の溶けて涙の石地蔵	夜の鹿鳴いて鳴かれて山の音

南柯句会

選句用紙

選者名　鮫島しょうん

特	6	5	4	3	2	1
一つ家に二つの余生　冬隣	手帳にも潜んでをりし秋思かな	表札の墨枯れ文字や霜の朝	秋うらら糸のほつれのそのままに	秋風や十石舟の水脈豊か	山の辺の柿熟れしまま落ちしまま	翁忌や句碑に雫の草書体

南柯句会

選句用紙

選者名　山﨑　たか

特	6	5	4	3	2	1
絨毛(せんげつ)の風(なぎ)の舟屋に銀の刺し網	脚に付く盗人萩や恋心	立冬や黄熟(おうじゅくこう)香のがらんどう	奈良町の茶粥満席冬日向	手をつなぎ花いちもんの芋の露	淡海に今宵の月の活けらるる	通草(あけび)掩(も)ぎ自然の甘さ分かち合ふ

南柯句会

選句用紙

選者名 花山

特	6	5	4	3	2	1
あんなにも目立つところに百舌鳥の贄	夜の鹿鳴いて鳴かれて山の音	タロットの後縁カード夜の秋	朝刊をカサカサたたむ秋深し	秋霧や一輩は表で我が心	現役の電話ボックス赤まんま	葉擦や影長くして道の果て

生き

南柯句会

選句用紙

選者名　真一

特	6	5	4	3	2	1
一つ家に二つの余生冬隣	月冴ゆる螺鈿紫檀の五弦琵琶	初霜の溶けて涙の石地蔵	朝霜の白銀残月の気品	登校の列に消さるる路の霜	栗南京ガールズトークの破裂音	帰り花母が笑ってゐるやうな

南柯句会

選句用紙

選者名　英志

特	6	5	4	3	2	1
不如帰（ほととぎす）畳んでしまふ胸のうち	傘の柄（え）の届けて背伸び通草（あけび）の実	初霜の溶けて涙の石地蔵	一つ家に二つの余生冬隣	死に近き父に呼ばるる霜の朝	点滴のしづく数へて霜夜更く	刻々と沼にのまるる破蓮（やれはちす）

南柯句会

選句用紙

選者名 しゃぼん

特	6	5	4	3	2	1
12	4	17	11	9	8	3
一つ家に二つの余生 冬隣	翁忌や句碑に雫の草書体	まだ駆ける脚の構えに角切らる	出会う人葱の束持つ山辺道	朝霜のひかり畑にも荒地にも	道草も摘ざ自然の甘さ分かち合ふ	栗南瓜ガールズトークの破裂音

南柯句会

選句用紙

選者名　福田洸弥

特	6	5	4	3	2	1
秋遊びじいは飛べない走れない	夜の鹿鳴いて鳴かれて山の音	登校の列に消さるる路の霜	一つ家に二つの余生冬隣	朝霜のひかり畑にも荒地にも	刻々と沼にのまるる破蓮	淡海に今宵の月の活けらるる

南柯句会

選句用紙

選者名　こば

特	6	5	4	3	2	1
横道に花街の名残り銀木犀	天高し誰にも拘はぬ鉄の杭	君の声真空パックにして秋夜	部署代わり新たな同僚神の留守	渋柿の渋抜けていく山河かな	朝の雨今日といふ日の一年生	淡海に今宵の月の若けらるる

南柯句会

選句用紙

選者名　上窓泰子

特	6	5	4	3	2	1
霜月や父の形見のレイヴィトン	横道に花街の名残り銀木犀	刻々と沼にのまるる破蓮（はちす）	初霜の朝も日課の三千歩	透けてゆく名月と日の別れ方	山の辺の柿熟れしまま落ちしまま	先行きの見えぬ株価や霧の朝

南柯句会

選句用紙

選者名　平草

特	6	5	4	3	2	1
我が物とそらみつ大和遍草もぐ	一つ家に二つの余生冬隣	冬めいて短き秋のもの悲し	帰り花母が笑ってるるやうな	終電に立方体の冬が来る	田んぼへと塔の影に霜残り	手帳にも潜んでをりし秋思かな

南柯句会

選句用紙

選者名　近藤和草

特	6	5	4	3	2	1
霜月や父の形見のルイヴィトン	初霜や少年といふ未然形	一つ家に二つの余生冬隣	教会のパイプオルガン金木犀	恋文といふに拙く近松忌	投了となりてため息いわし雲	霜の夜の玉眼潤む無著像

南柯句会

選句用紙

選者名　上田秋霜

特	6	5	4	3	2	1
横道に花街の名残り銀木犀	刻々と沼にのまるる破蓮(やれはす)	秋深し紙垂(しで)の掛かりし能舞台	御陵(みさざき)へ暮れゆく山路榎(かりん)の実	督促状二通郵便受の霜	霜月や父の形見のルイヴィトン	秋風や十石舟の水脈(みお)豊か

南柯句会

選句用紙

選者名　白井桃紅

特	6	5	4	3	2	1
タロットの復縁カード秋の夜	パーの指反り返り霜夜の仁王	強霜(つよしも)や決心かたくして一歩	神鶏の声に出発小句の秋	田んぼへと塔の形に霜残り	君の声真空パックした秋夜	かくれんぼして黄落(おうらく)の色となる

南柯句会

選句用紙

選者名　二晁

1	2	3	4	5	6	特	8	9	10
スーパーの柿の秋刀魚や目に涙	秋深し紙垂の掛かりし能舞台	翁忌や句碑に栗の草書体	通草掘ぎ自然の甘さ分かち合ふ	点滴のしづく数へて霜夜更く	山の辺は稔りの秋ぞ三万歩	神鶏の声に出発ホ句の秋			

南柯句会

選句用紙

選者名　米田よし

特	6	5	4	3	2	1
渋柿の渋抜けていく山河かな	部署代わり新たな月僚神の留守	まだ駐ける脚の構えに角切る	終電に立方体の冬が来る	田んぼへと塔の形に霜残り	霜月や父の形見のルイヴィトン	秋遊びじいは飛べない走れない

南柯句会

選句用紙

選者名　富野香衣

特	6	5	4	3	2	1
一つ家に二つの余生冬隣	君の声真空パックにした秋夜	現役の電話ボックス赤まんま	かくれんぼして黄落の色となる	立冬や黄熟(おうじゅく)香のがらんどう	あんなにも目立つところに鵙の贄	秋風や十石舟の水脈豊か

南柯句会

選句用紙

選者名　へちま

特6	特	5	4	3	2	1
初霜を強く踏み込み振るバット	霜の夜の玉眼潤む無著像	我が物とそらみつ大和通草もぐ	秋刀魚焦がす卓袱台ありし頃の母	翁忌や句碑に雫の草書体	投了となりてため息いわし雲	部署代わり新たな同僚神の留守

一松

南柯句会

選句用紙

選者名　横田清史

特	6	5	4	3	2	1
妣の声留守電で聞く秋夜かな	酔漢は同じはなしす雨の夜	不如帰畳んでしまふ胸のうち	葉塚や影長くして道の果て	奈良町の茶粥満席冬日向	パーの指反り返り雷夜の仁王	一つ家に二つの余生冬隣り

はは

南柯句会